

## 別表 環境に配慮した取組及び評価点

名古屋市では、2050年の環境都市ビジョンとして「土・水・緑・風が復活し、あらゆる生命が輝くまち」を掲げ、下記の4つの環境都市像をめざした取組を進めています。エコ事業所の認定も、この方向性に沿って取組の評価点を設定しています。評価点の合計ができるだけ高くなるよう、皆様の積極的な取組をお願いします。

### 1 「健康安全都市」をめざした取組

＜大気と水環境などが良好な状態にあり、健康で安全、かつ快適な生活環境が保全されているまち＞

項目	細目	評価点	取組例など
1 快適な生活環境の保全	(1) 事業活動における生活環境への配慮	1	・ 大気や水などの生活環境の保全に関し、法令の数値規定より厳しい自主的な数値目標を設定し、取組を実施
	2 自動車利用における環境配慮の実施	1	・ 通勤・業務における公共交通機関や自転車の利用促進、カーシェアリングの導入、社用車の車両削減 ・ 従業員のマイカー通勤の規制
	(2) エコドライブの推進	1	・ 車両ごとに燃費を管理し、燃費を改善 ・ 定期的にエコドライブに関する講習を実施
		1	・ エコドライブマイスター*を設置
	(3) 次世代自動車の導入	2	・ 電気自動車、天然ガス自動車、ハイブリッド自動車、プラグインハイブリッド自動車、クリーンディーゼル自動車、燃料電池自動車、車両総重量3.5t超のポスト新長期規制適合以降ディーゼル車の導入  上記の保有台数が自動車全保有台数の10%以上
		1	次世代自動車を保有しており、その保有台数が10%未満
	(4) 環境に配慮した輸配送	1	・ 他社との共同輸配送、モーダルシフト（幹線貨物輸送をトラックから鉄道や海運に転換する）等効率的な輸送の実施 ・ 納入事業者、配送事業者に対して「グリーン配送」（環境に配慮した配送）を要請

### 2 「循環型都市」をめざした取組

＜廃棄物などの発生抑制や資源の循環利用、適正処理が促進され、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が最小限に抑えられているまち＞

項目	細目	評価点	取組例など
3 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進	(1) 用紙類の削減、ペーパーレス化	1	・ 両面コピー、使用済み用紙の裏紙利用等による全社的な紙の使用量削減 ・ 電子掲示板、電子決済、共有フォルダ等のパソコン利用による全社的なペーパーレス化の実施
	(2) オフィス古紙の分別回収、リサイクル	1	・ 分別ボックスの配置、分別基準の設定等による全社的なオフィス古紙（OA用紙、ダンボール、新聞紙、雑誌、カタログ等）のリサイクル ・ シュレッダー古紙、雑古紙（メモ用紙、封筒等）のリサイクル ・ 感熱紙、伝票用紙等のミックスペーパーのリサイクル
	(3) 事務用品事務用機器のリユース	1	・ 余剰文具、事務用機器等を回収し保管しておき、必要だけ渡す ・ 使用済み封筒を文書連絡用や書類入れ等に再利用
	(4) 生ごみ等の資源化	2	・ 生ごみを堆肥化又は飼料化し有効活用 ・ 樹木のチップ化による有効活用 ・ 廃棄物処理事業者への搬入による生ごみの有効利用
	(5) 自社製品、販売品の回収	2	・ 使用済み自社製品の回収、リサイクルシステムの導入 ・ 紙パック、食品トレイ、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル等の店頭回収の実施
	(6) 輸送時の廃棄物の削減	1	・ 通い箱・袋（繰り返し使用する梱包材）の採用 ・ 包装材の構造の改良、簡素化による包装材使用量の削減 ・ 発泡スチロール箱等梱包材のリサイクル
	(7) その他発生抑制、リサイクルの取組	1	・ 容器包装の削減、製造工程における廃棄物の削減
4 グリーン購入の推進	(1) 環境ラベル商品等の購入、使用	1	・ OA用紙・文房具類の購入、使用 ・ その他（作業服、名刺等）の購入、使用
		1	・ 環境ラベル商品等の購入基準・リストを作成
	(2) 環境に配慮した建設資材の利用	1	・ 「環境物品等の調達に関する基本方針」（グリーン購入法）の公共工事に関する分野にかかる資材の利用を積極的に実施

### 3 「自然共生都市」をめざした取組

<生態系ネットワークが広がって、健全な水循環が回復し、豊かな水と土・緑、多様な生きものが身近に感じられるまち>

項目	細目	評価点	取組例など
5 緑化の推進	(1) 敷地内緑化（屋上緑化、壁面緑化の面積を含む）	1	・ 屋上緑化、壁面緑化、緑のカーテン <sup>※</sup> のいずれかを実施 ・ 敷地面積の10%以上20%未満の緑化の実施
		2	・ 敷地面積の20%以上の緑化の実施
6 生物多様性の取組推進	(1) 事業活動と生物多様性の関わりの認識	1	・ 原料調達や廃棄物の排出等、事業活動が生物多様性に影響を与えることに配慮する必要があることを環境方針に掲げるなど、従業員が認識を共有
	(2) 生物多様性に配慮した事業活動の実施	1	・ 生物多様性に配慮した製品 <sup>※</sup> 、サービスを販売・購入 ・ 事業所内にビオトープ <sup>※</sup> を設置等
	(3) 生物多様性に配慮した認証の取得	2	・ 森林認証 <sup>※</sup> や漁業認証 <sup>※</sup> 等の取得
7 水資源の有効利用	(1) 節水の取組	1	・ 節水こまの設置、節水型トイレの採用、女子トイレに擬音装置を導入
	(2) 水の有効利用	1	・ 雨水の貯留タンクや雨水利用施設の設置等による雨水利用 ・ 工程内で発生する洗浄水等を中水処理し、有効利用
	(3) 水循環の確保	1	・ 事業所内に透水性舗装、浸透マス、浸透性側溝等の雨水浸透施設を設置 ・ 事業所内に保水性舗装を実施

### 4 「低炭素都市」をめざした取組

<自然エネルギーなどの利用が促進され、ライフスタイル・ビジネススタイルの省エネルギー化が進むなど、少ないエネルギー消費で快適な生活ができるまち>

項目	細目	評価点	取組例など
8 省エネルギー・省資源の推進	(1) 日常的な省エネルギー対策の実施	1	・ エコ・スタイル等による空調設定温度の適正化、空調時間の短縮化等の全社的な実施 ・ 不用照明の消灯、OA機器の不使用时のスイッチオフ等の全社的な実施 ・ 照明ランプの定期的な掃除、空調フィルターの定期的な清掃
		1	・ 省エネ推進組織を設置 ・ 各部署ごとに環境担当者を配置 ・ エネルギー使用実績をグラフ化するなどして従業員に周知等
		1	・ 下記の取組のどれかを実施（事業所の一部での実施も含む） ・ Hf 蛍光灯等高効率ランプや器具の採用 ・ 屋外照明に人感センサー等による自動点滅を採用 ・ 省エネタイプの誘導灯を採用 ・ その他省エネルギー機器の導入
	(4) 高効率な省エネルギー機器の導入	1	・ 下記の取組のどれかを実施（事業所の一部での実施も含む） ・ LED照明の採用 ・ ビル内廊下やトイレ等の照明に人感センサー等による自動点滅を採用 ・ 複層ガラス等による建屋断熱強化、日射遮蔽の採用 ・ 高効率ヒートポンプ、蓄熱システム等の採用 ・ 高効率ボイラー（排熱回収等）の採用 ・ その他高効率機器の導入
		1	・ 上記取組のどれかを事業所の大半で実施
	(5) 製品開発・生産プロセス改善	2	・ 環境に配慮した製品開発をするためのガイドライン策定等 ・ 工程の短縮化・連続化・熱のカスケード利用等
	(6) 電力の平準化	1	・ デマンド監視装置等を利用してピークカット ・ ピークシフトのための取組 ・ 電気使用設備からガス使用設備等への変更
(7) その他省エネルギー・省資源対策	1		
9 新エネルギー等の導入	(1) 太陽光発電等	2	・ 太陽光発電の導入、風力発電の導入など
	(2) コージェネレーションシステム	2	・ ガスコージェネレーションシステムの導入
	(3) その他新エネルギー等	2	・ バイオマス発電などのその他新エネルギー等の導入
10 カーボン・オフセット <sup>※</sup> の導入	(1) カーボン・オフセットの取組実施	2	・ Jクレジット <sup>※</sup> 等のクレジット制度を利用して、カーボン・オフセットの取組を実施

## 5 総合的な環境配慮活動

項目	細目	評価点	取組例など
11 環境管理システムの導入等	(1) ISO14001、50001※の認証取得	6	
	(2) 環境管理システムの導入(ISO14001,50001の認証を取得していない事業所に限りません。)		
	ア 環境配慮項目の把握、集計	1	・ 電力・廃棄物・紙・自動車燃料・ガス・水道の使用量や環境配慮製品の販売量のうち、必要なデータを3ヶ月分以上集計
	イ 削減目標の設定	1	・ 上記の削減目標等を設定
	ウ 活動結果の点検、見直し	1	・ 「なごや環境ノート」の活用等による簡易な環境管理システムを構築し、定期的に取組内容や削減目標の見直しを実施
	エ 環境保全に関する教育の実施	1	・ 従業員への定期的な環境教育を実施（e-ラーニングを含む） ・ 教育記録を作成 ・ 電子メール等での環境関連の双方向による情報配信（月1回以上） * エコ事業所取組手順の従業員への周知、取組結果の報告 * 地球温暖化問題等の教育
(3) 環境報告書の作成等		2	下記の取組を申請事業所が主体になって実施 ・ 環境報告書の作成、配布、ホームページ等による公表 ・ 環境会計の導入、開示
		1	・ 上記取組を申請事業所は主体ではないが、関与して実施
12 社会貢献活動の実施	(1) 一般的な取組	1	・ 地域における美化活動、リサイクル活動等に参加 ・ 環境に関連したNPO等への支援
	(2) 社会への波及性の大きな取組	2	・ 環境に関する支援・公開講座等を主体となって実施 ・ 環境に関連したパンフレット等を作成し、一般に配布
	(3) 本市の環境施策への協力	1	・ なごや環境大学での講座運営 ・ 環境デーなごやに協賛 ・ その他本市環境施策への協力

※

エコドライブマイスター	事業所内でのエコドライブ推進者として名古屋市が認定した者
緑のカーテン	日の当たる窓の外を、アサガオやゴーヤのようなつる性植物で覆う自然のカーテンにより、室温の上昇を緩和するもの
生物多様性に配慮した製品	下記に示すような生物多様性に関連が深い環境ラベルの認証を取得した製品等
森林認証	森林が環境・経済・社会的に適切に管理されていることや、林産物の流通等を第三者機関が認証する制度（FSC認証等）
漁業認証	漁業の持続可能性、水産物の流通等を第三者機関が認証する制度（MSC認証等）
その他	生物多様性に配慮した金融商品、フェアトレード商品、レイズフォレスト・アライアンス認証など
ピオトープ	開発などで本来の自然環境が失われた場所に、人工的に創造した生物の生息・生育空間
カーボン・オフセット	できるだけ温室効果ガスの排出削減努力を行っても、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量と同等の温室効果ガスの削減・吸収量を購入することで、排出される温室効果ガスを相殺（オフセット）する考え方
Jクレジット制度	温室効果ガス排出削減のクレジット制度
ISO50001	エネルギー管理体制の継続的な改善を実施するための国際規格

### エコドライブ10のすすめ

1.ふんわりスタート	やさしい発進を心がけましょう。（最初の5秒で時速20kmが目安です。）
2.加減速の少ない運転	車間距離は余裕をもって、交通状況に応じた安全な定速走行に努めましょう。
3.早めのアクセルオフ	エンジンプレーキを積極的に使いましょう。
4.エアコンの使用を控えめに	車内を冷やしすぎないようにしましょう。
5.アイドリング・ストップ	無用なアイドリングをやめましょう。
6.暖機運転は適切に	エンジンをかけたらずぐ出発しましょう。
7.道路交通情報の活用	出かける前に計画・準備をして渋滞や道路障害等の情報をチェックしましょう。
8.タイヤの空気圧をこまめにチェック	タイヤの空気圧を適正に保つなど、確実な点検・整備を実施しましょう。
9.不要な荷物は積まずに走行	不要な荷物を積まないようにしましょう。
10.駐車場所に注意	渋滞などをまねくことから、違法駐車はやめましょう。

エコドライブ普及連絡会「エコドライブ10のすすめ」を基に作成